

S. Y. 英語英文学科・4 年次生

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

幼い頃から海外のドラマやアニメを観ていたこともあり、ずっと海外への憧れがありました。高校生の頃に留学をしようと考えていたのですが、コロナ禍と重なって実現することができませんでした。しかし、大学に入学してコロナ禍が落ち着いたため、改めて留学に挑戦しようと思いを固めました。協定留学で留学することに決めたのは、現地の学生と一緒に大学で授業を受けることができる点や、休学せずに現地で取得した単位を本学の単位に読替ができる点に魅力を感じたからです。

② 留学を目指してから出願までの語学学習方法

私は当初、2025 年度の秋スタートでのアメリカへの留学を予定していました。しかし、トランプ政権の影響によりビザ申請が停止されたため、留学を断念せざるを得なくなりました。そこで、留学開始時期を春スタートに変更し、留学期間等との兼ね合いから留学先を別の大学へ変更することを決め、新たな出願先の要件を満たすため、IELTS を勉強し直すことにしました。春スタートの出願締切まで残された期間は 2～3 か月ほどしかなかったため、短期間で集中して詰め込みました。

◆使っていた教材

・実践 IELTS 英単語 3500

Band ごとに単語が分類されているため、私は目標に合わせて 6.0 と 6.5 のセクションをメインに暗記していました。余裕がある時は、7.0 の単語にも目を通すようにしていました。

・実践 IELTS 技能別問題集ライティング

ライティングの構成方法や、エッセイで使える便利なフレーズ・単語が詳しく載っています。私は同じ言葉を言い換えるパラフレーズが苦手だったのですが、この本を通じて別の表現や単語を暗記し、同じ表現を繰り返さないように意識して練習していました。

・実践 IELTS 技能別問題集スピーキング

ライティングと同様に、スピーキングの構成や使えるフレーズが詳しく解説されていたので、本番で使えるように暗記していました。

・ケンブリッジ出版公式問題集

模擬テスト 4 回分が収録されています。解説もすべて英語ですが、間違えた問題やわから

なかった部分は解説をじっくり読んで理解を深めるようにしていました。

◆使っていたサポート・動画

- ・ Speaking & Writing Support（国際課の語学学習支援：無料英語レッスン）

マンツーマンで 1 回 20 分間ネイティブの先生の英語レッスンです。週に 1 度は必ず利用すると意識して利用していました。基本的にはスピーキングの練習相手になってもらい、時々ライティングの添削もお願いしていました。英語で指導してもらえるため、リスニングの練習にもなりました。

- ・ IELTS Advantage (YouTube)

IELTS で Band8.0 や 9.0 といった高得点を獲得するための YouTube 動画です。目標のスコアとしては高いですが、実際にハイスコアを獲得した人たちのハイレベルな言い回しやフレーズを自分のなかに取り入れる参考にしていました。

また、他にも YouTube で「IELTS 勉強法」と検索し、さまざまな方の勉強スタイルを参考に
にして自分に合う方法を取り入れていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間にしたこと

◆ 語学学習法

英語に触れ続けるために、英単語の暗記と Speaking & Writing Support の利用は変わらず
継続しました。また、SNS で海外のコンテンツを見たり、TOEIC や英検準一級の取得に挑
戦したりしていました。

◆ ビザ申請方法

エクセルエデュケーションというエージェントさんに学校経由でお願いし、書類を提出し
て手続きを進めてもらいました。ただ、ビザ申請に必要な書類の質問項目に対し、日本語と
英語の両方で回答しなければいけなかったのも、その作成が大変でした。

◆ その他

クレジットカードの作成、スマホの SIM や料金プランの検討、常備薬の手配などを中心に
進めました。航空券については、往路と復路を同時に購入しました。

④ 現地到着後

◆ 空港から滞在先までの移動手段、所要時間

エクセルエデュケーションさんが手配してくださった空港ピックアップを利用し、ホーム
ステイ先まで送っていただきました。時間は 15 分ほどで到着しました。

◆ 現地でのオリエンテーション期間中にしたこと

留学生向けの International Student Welcome Orientation だけでなく、図書館オリエンテーションや自分が授業を受ける学部のアオリエンテーションにも参加していました。オリエンテーション期間が1週間ほどあったので、予定が入っていない日は一人でシドニーの街を観光し、現地の雰囲気に慣れる時間にあてていました。

◆ その他必要な諸手続き方法

3か月の滞在だったので口座開設はしていません。

⑤ 語学研修期間

語学研修期間なし

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

キャンパスが非常に広大で、当初は移動に Google マップが手放せませんでした。キャンパス内には勉強スペースが多くあり、学習環境は非常に整っていると感じました。また、自然が豊かなキャンパスのため、天気がいい日には外の芝生やベンチで勉強している学生も多くいました。

◆ 履修科目について

・ EDST1104 Social Perspective in Education

授業内容：教育学を、経済・人種・ジェンダーといった社会的な視点から学習する授業です。Lecture と Tutorial の2つに分かれており、Lecture はオンライン、Tutorial は対面で行われました。Lecture で教科書に沿った基礎知識を学び、Tutorial でその復習や内容の深掘り、学生同士のディスカッションを行うという流れでした。

課題・試験内容：中間レポートと最終レポートの2つがあり、筆記の最終試験はありませんでした。中間レポートは、これまでの自分自身の学校教育における経験を授業で学んだ理論に沿って分析するもので、字数は1500words程度でした。最終レポートは、ニューサウスウェールズ州の学校を1つ選び、その学校の現状を分析した上で自分がそこで教師として働く場合、どのようなアプローチを取るかを2500wordsで執筆するものでした。

・ ARTS 2698 Social Life of Language

授業内容：言語学をジェンダー、アイデンティティ、歴史などの観点から学ぶ授業です。Lecture と Tutorial が一緒になった3時間のSeminar形式で行われました。最初は3時間がとても長く感じられますが、回を重ねるごとに徐々に慣れていきました。この科目は、他

の授業に比べて留学生の割合が多かった印象です。

課題・試験内容: 主な課題は、プレゼンテーション、5 分間のインタビュー、そして 2000words の最終レポートでした。プレゼンテーションは一人一回、先生から指定されたお題に沿って発表を行います。また、他の学生の発表を聴く際は、毎週 Reflection Sheet を記入して提出する必要がありました。インタビュー課題では、異文化や多言語のバックグラウンドを持つ家族や友達にインタビューを行い、最終レポートでその内容を言語学の観点から分析して提出しました。私は現地のハーフの友人に協力してもらい、インタビューを実施しました。

・ ARTS2755 Inclusive Development: Gender and Intersectionality

授業内容: 国際開発やジェンダーについて、グループワークを中心に学ぶ授業です。こちらでも Lecture と Tutorial に分かれていました。受講生のほとんどが現地の学生で、留学生は私を含めて数人しかいませんでした。

課題・試験内容: 課題は、グループワーク、その振り返り(1000words)、最終レポート(2000~2500words)の 3 つでした。グループワークでは、架空の国における国際開発をテーマに、クラスが 4 つのチームに分かれて議論や交渉を行いました。日本の大学でこうした実践的なグループワークの経験があまりなかったことに加え、現地学生の英語のスピードの速さや内容の難しさもあり、ついていくのが本当に大変でした。最終レポートは、「ジェンダーとインターセクショナリティに関する成果を向上させる」という目標を達成できた事例、または達成できなかった事例について論じるもので、8 本以上の参考文献の引用が必須だったため、準備が大変でした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

大学の課題や就活が忙しく参加しませんでした。

⑧ 現地での住まいについて

◆ 正規科目履修期間

部屋のタイプ: 一人部屋、ルームメイト 1 人、トイレ・シャワー共同、朝晩のみ提供

大学までの手段: バスで 20 分~30 分 乗り換えなし

普段はホストマザーとルームメイトと私の 3 人で過ごしていました。マザーの旦那さんが月に 1~2 回ほど家に帰ってきて、その時は 4 人で過ごしていました。また、娘さんやお孫さんも定期的にディナーを食べに家に訪れていたので大人数で食事をすることもありました。ホストマザーがイタリアにルーツを持つ方だったので、イタリア料理が出てくるのが多かったです。その一方で、時々白ご飯やお味噌汁を作ってくださったので日本食が恋しくて困るといったことはあまりありませんでした。お仕事をされていた方だったので一緒に出かける機会は多くありませんでしたが、その日の出来事を共有したりテレビを一緒に見たりして楽しかったです。デザートを作ってくれることもあり、有難いことに食事面でのス

トレスは全くありませんでした。ルームメイトの子は在日の子で日本語が理解できたので、わからないことがあれば日本語で確認し合っていました。

⑨長期休暇の過ごし方

1 タームの留学なのでありませんでした。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

オンラインでの一次面接や企業説明会に参加していました。帰国時期との兼ね合いもあったため、志望企業にはあらかじめメールで今後の選考フローについて問い合わせるなどの対応も行いました。また、キャリア支援部が実施しているオンライン面談を活用し、面接対策や ES の添削をしてもらってました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

現地でできた友達と一緒にシドニーの中心街に遊びに行ったことです。留学前から SNS で見つけて気になっていたカフェに一緒に行ったり、現地の友達にシドニーの街を案内してもらいながら観光したりしました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

最初は授業についていくのが精いっぱい、単位が取れるのかという不安がありました。さらに就活も並行していたため、そのプレッシャーが重なって時々眠れない夜もありました。友達や知っている人が周りに一人もいなかったのも、最初の頃は本当に心細かったです。毎週課される大量のリーディングの課題に加え、レポート用にさらに別の参考文献を読み込まなければならず、本当に大変でした。課題が終わっても次は就活のタスクが待っている状態だったため、精神的にかなりのストレスを感じていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

事前に SNS や留学に行った人から海外での生活を調べたり聞いたりしていたので、特に大きなカルチャーショックはありませんでした。ただ、現地の方の運転が日本に比べて荒いことや、バスの車内で次のバス停を知らせるアナウンスがないことには、最初は少し驚きました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は、勉強スペースと飲食店が非常に充実していることです。屋内だけでなく屋外にも勉強スペースがあるので、天気のいい日は外で気持ちよく気分転換して勉強できます。

学内にはレストランやカフェがあるほか、大学から路面電車で 5 分ほどの場所には飲食店が並んだストリートがあり、お昼ご飯の選択肢が豊富で非常に便利だと感じました。悪かった点は、キャンパスがあまりにも広大で移動が大変なことです。それ以外に不満に思うような悪い点は特に見当たりませんでした。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

変換プラグ、日本のタコ足コンセント、ノートパソコン、iPad は持って行って良かったと感じています。大学の資料配布や授業中のメモ、課題作成はすべてデジタルで行われるため、毎授業にパソコンは必須でした。また、自室用に日本のタコ足コンセントを一つ持参したことで、パソコン・スマホの充電器や日本のヘアアイロンなどを同時に差し込んで使えたので非常に便利でした。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

3 か月という期間だったため、正直に言えば劇的に語学力が伸びたということは正直あまりありません。しかし、リスニングとリーディングは確実に伸びたと感じています。留学の終盤には教授や学生たちの英語もある程度は聞き取れるようになりました。また、毎週大量の英文を読み込む必要があったためリーディングの速度も上がり、教育学や言語学といった専門的な用語・知識が留学前よりも深く身に付いたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

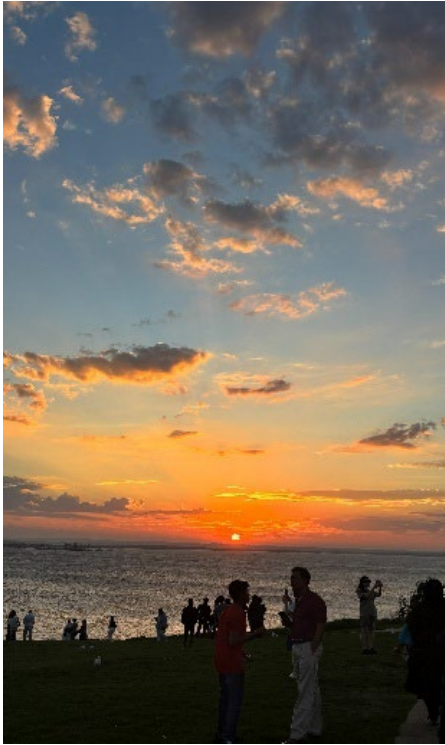
正直なところ、留学は SNS で見かけるようなキラキラした楽しいことばかりではありません。むしろ、大変なことやしんどいことの方が大部分を占めると思います。実際に私も、言語の壁や、授業の難しさ、家族や友達に会えない寂しさから精神的にしんどくなってしまう時期がありました。しかし、ここで踏ん張った経験は留学でしか得られない一生モノの財産ですし、将来どんな形であれ必ず自分の強みになります。だからこそ、途中で諦めずにぜひ最後まで頑張ってください。もししんどくなった時は、日本の家族や友達と連絡を取ったり、日本の動画や音楽を観たりして、意識的にリフレッシュする時間を大切にしてください。個人的な事前準備のアドバイスとしては、日本にいるうちに海外の映画やドラマをたくさん観たり、ネイティブスピーカーと話す機会を増やしたりして、現地の生の英語のスピードに少しでも慣れておくことを強くお勧めします。想像以上に現地の方の英語は速いですし、オーストラリアは多国籍の国なので、人によって様々なアクセントがあることをあらかじめ理解しておくだけでも心構えが変わります。また、私自身が就活との両立にとてもストレスを感じたので、もし留学に行くかどうか迷っている人がいれば、日本の選考が本格化する前の段階で留学へ行くスケジュールを組むのがベストだと思います。

IV. 将来の目標

今後の進路、将来の目標・夢

現時点でこの職業に就きたいという明確な職種はまだ決まっていますが、今回の留学を通じて身に付けたタフさや、語学力、そして大学で学んだ専門知識を活かせる仕事に就きたいと考えています。

V. 写真



ホストマザーとルームメイトと一緒に夕日を見に行ったときの写真です。丘の上だったので風が強かったですが、とても気持ちよかったです。

2026 年度（春スタート・1 セメスター）
University of New South Wales



現地でできた友達と一緒に went 行ったかったカフェに行った時の写真です。抹茶とほうじ茶のラテが有名で、濃厚で美味しかったです。



友達と一緒にオペラハウスの近くにある Australian Rockery Lawn の写真です。日陰で休憩したのですが、風が気持ちよく、この芝生からハーバードブリッジが見えてとてもきれいでした。